

「注意力」 ～しっかり確認！～

エペソ5：8～21

あなたは注意力があるほうでしょうか？何か悪い状況を見て気をつけるということは注意でしょうか。準備万端なのに最後の最後で失ってしまう、これはもったいないことです。これを「その日暮らし」といい、その日さえよければという生き方なのです。今の私たちの生活はその日暮らしになっていませんか。それとも将来をきちんと考えて確認して生活していますか？花嫁のたとえにあるように、私たちはいつでも出発できるように準備しておく必要があるのです。聖書で酒を飲んでほしくないといっているのは、私たちが大切なものを失う可能性があるからです。（エペソ5：17～20）これは私たちの心がよい状態に保たれるように、つまり注意散漫にならないための秘訣です。こういうときはだいたいイライラしたり感情的になったりして失敗してしまうのです。何かがあったときに的確に対処するためにもこういう状態しておかないといけません。何か悪い状況が起こったときに、恐怖によって何かをしないのではなく、何かをしようとするときに注意して上手に成功させるためなのです。これは大きく違うのです。私たちの生活が散漫になり、その日暮らしになると生活（衣食住）が崩れてきます。するとやる気が起こらなくなり自分の好きなことしかなくなり、中枢が壊れてきてしまうのです。そして安心がなくなり恐れが出てきます。すると‘注意力’で物事を判断してやるのではなく恐れてやらなくなってしまいます。子供は恐れていません。私たちは本来そのように作られました。私たちが賢く歩んでいくためにはライフスタイルを変えていかなくてはなりません。あなたの人生が本当に幸せになるためには表面上だけ良くなって意味がないのです。あなたの生活のすべてが良くなる必要があるのです。今の若い人たちには、落ち着く時間もあまりありません。しかし、しっかり座ってゆっくりと考えるからこそ、人は冷静に判断をすることができます。だからこそ私たちに‘ゲッセマネの祈り’が大切なのです。生活の中で自分を良い環境における場所を作ることが大切なのです。しっかりと落ち着き、いやな気持ちにならず、恐れず幸せな気持ちでいられる場所を作ること、つまり神様を感じる場所を作ることによって生活スタイルがよくなるのです。生活スタイルがよくなれば生きることが楽しくなってきます。悩みが多い人はどんどん多くなり、よい人はどんどんよくなるのです。ユダは熱さはありませんでしたが冷静さに欠きあせってしまいました。私たちが冷静さに欠いて何かをしようとそれが連鎖的に起こってしまい、繰り返してしまうのです。それを改善する必要があります。（エレミヤ8：6）私たちに恐れや不安が起こってくると、自分を守るために失敗を認めたくなくなります。失敗をくりかえさないために①改めに意を注ぐ。注意とは怖いから危険を回避するために気をつけるということではなく、「思いを注ぐ」ということです。あなたを注意するというのは否定をするということではありません。自分が失敗したのなら失敗したことを認めて改めましょう。ごめんなさいといえない、自分は悪くないという、これは「自己義」です。「だって」といっている時点で開き直ってしまっているため人は変わりません。そして成功に結びつけるためには、失敗を認めるだけでなく、それを改めることが大切なのです。どうしてそうってしまったのか理由を探る必要があるのです。それはあなたの失敗を責めるためではありません。失敗を繰り返さないために、しっかりと原因を探り改めていきましょう（Ⅱ歴19：6）②人を見る目に注意。さばき司とは祭祀のことです。そして万民祭祀である今は「あなた」が祭祀です。祭祀には神の前で許されたという権限があります。神のために裁くとは悪口を言うことではありません。神様が作った状況にその人を戻すためにその人の悪い行いに対して指摘し、注意してその道とともに進むということです。「あの人はだめだ」ということは簡単です。しかし「裁いたとおりに裁かれる」と聖書には書かれています。あなたが失敗している人を自分のために裁くと、裁いたとおりの結果になっていってしまいます。だから私たちクリスチャンは裁いてはいけません。あなたは人を見てどう判断していますか。神の目線で裁いてください。神があなたを裁いたように人を裁いてください。裁いている人は人を裁いているから褒められません。抜け目無く知恵に満たされ、いつも機会を生かす人になってください。失敗を憎み、人を憎まないようにしましょう。人を否定することは、作った神を否定し、自分をも否定することになります。徳を高めるために注意しましょう。（ルカ8：15）③聞く耳に注意。あなたはどのような聞き方をしていますか。あなたには色々な価値観があるでしょうが、聞くとは救いの門の中に耳を入れることが大切です。聞くときにいい情報に基づいて聞くほうがよいのです。食べることは聞くことから始まるといわれるように、メッセージもあなたの聞き方によって変わってきます。失敗しないために聞き方を考えなくてはなりません。私たちは自分にとっていい情報は忘れません。忘れてしまうというのは聞き方に問題があるのです。人から注意を受けたときに「あなただって・・・」とその人の失敗を思い出しているようではあなたは変わりません。聞ける人は変わります。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」だから聞きましょう。言われたくない人から言われたら特に聞きましょう。聞く人になり、忠実に神の前に奉仕をするようになると失敗しなくなります。改めること、人を見る目、聞く耳に意を注ぎ、成功を勝ち取っていきましょう。